

<テーマ>言語としての式を意識した対話で深い学びにつなげる取組(東松島市立大塩小学校)

【ねらいと特色】

本時では、一つの数量を表すのに ( ) を用いることを理解させるとともに、( ) を用いて一つの式に表すことは、数量関係を簡潔に表すことができるよさがあることに気付かせることをねらいとしている。指導に当たっては、以下の点を工夫した。①「算数の言語としての式」を意識させ、ストーリーという表現を使い、いろいろな場面を正確に式に表したり、式から場面のストーリーを読み取ったりする言語活動を重視した。②意図的指名による対話的な学びを通して、友達の考えからの気付きを引き出し、式の意味の理解の深化や式のもつ数理的な処理のよさに気付かせた。③児童の生活経験を想起させ、主体性や意欲を引き出したり、自力解決への見通しを持たせたりした。④自力解決では、つまずきへの支援に加え、練り合いによる深い学びを引き出すための支援も行った。⑤適用問題は、本時の学びのよさを実感できるよう生活との関連や児童の発想を生かした展開を行った。

【実践の概要】

